



TDA交流イベント

TDA サロン『景観デザインとは何か？』

「景観デザイン」という言葉はよく耳にしますし、使いもします。しかし、道路デザインと道路景観デザインとを、私たちは正しく使い分けているでしょうか…。

街並デザインと街並景観デザインとの違いを、私たちは自覚しながら街並みを議論できているでしょうか…。ちょっと心配になってきませんか。

そこで、景観デザインとは何か、景観デザインの第一人者、堀教授に分かりやすく解説していただこうと思います。

日 時：2016年7月22日（金） 18：30～19：30（開場 18：15）

会 場：台東区立浅草文化観光センター 大会議室（東京都台東区雷門2丁目18番9号5階）

資料代：会員 500 円、一般 1,000 円、学生無料（定員 50 名・先着順：7/20×切）

※サロン後、懇親会を予定しています（懇親会参加費 3,500 円、会場未定）

□話題提供

堀 繁 氏（東京大学 アジア生物資源環境研究センター 教授）

専門 景観デザイン、景観工学、計画設計思想史、地域計画

経歴 1952 年東京生まれ。東京大学農学部卒業後、環境庁自然保護局主査、東京大学農学部助手、東京工業大学社会工学科助教授などを経て、平成8年3月より現職。国土審議会、歴史的風土審議会の各専門委員など。国、公団、地方公共団体の各委員会座長・委員等を歴任。地域活性化、商店街や観光地の振興、まちづくりなどの計画設計を中心課題とする。



宇佐市 横町通り（2015.11. 竣工、設計 東京大学 堀研究室）

神仏混淆の総本山、「八幡様」の宇佐神宮の周辺整備。明治の廃仏毀釈に伴って参道でなくなっていた道を参道風に再整備したもの。写真左に続く現参道との結節点を広場風のデザインとするなど、地域活性化を意識した舗装デザインとなっている

□司会進行

西田 幹（TDA 理事／デジタルキアロ）

申 込：TDA 事務局宛にメールにて、サロン・懇親会参加の有無を明記してお申し込みください

※定員制につき先着順とさせていただきます。キャンセルの場合も必ずご連絡ください

主 催：特定非営利活動法人 景観デザイン支援機構 main@tda-j.or.jp

T D A サロン『景観デザインとは何か?』

講演者:堀 繁 氏(東京大学アジア生物資源環境研究センター 教授)

日 時:2016年7月22日(金) 18:30~19:30

会 場:台東区立浅草文化観光センター 5 階大会議室

主 催:特定非営利活動法人景観デザイン支援機構(T D A)

景観とは...見ることである！(景観まちづくりセミナー開催報告)

来場者驚嘆！町の見方が変わった！？

平成25年2月16日(土曜日)宇佐神宮参集殿にて、東京大学より堀 繁(ほり しげる)氏をお招きし、「景観まちづくりセミナー」を開催しました。

とにかく、我々になじみ切りの物事を見る堀先生に、“目から鱗が落ちる”一同でした！

午前の部(講演)においては、実技やスライドを利用した、来場者参加型で、笑いの絶えない大変分かりやすい講演を披露していただきました。

午後の部(まち歩き・意見交換会)において、まち歩きでは、参加者からたくさんの質疑が飛び交い、みなさんの「景観」「まちづくり」に対する大きな関心を感じさせられました。意見交換会では、「宇佐町はこうあるべきではないか」という、堀先生流の“宇佐町改善計画”が披露され、みなさん「はあ～、なるほど！」と感心の面持ちでした。

午前、午後ともに大変多くの参加者にお越しいただき、大盛況のうちに幕を閉じました。参加者のみなさん、そして堀先生、本当にありがとうございました！



大盛況のパネル展！地元の方も知らない昔の宇佐町に
みなさん関心を寄せていました！



昔話に花を咲かせています！



こんなにもたくさんの参加者が集まり・・・



さすがの堀先生も驚きを隠せません！



伝家の宝刀「ゲーからパーの原則」！



見やすい大きさ・・・なるほど、これが「見込角」か！



天候にも恵まれ、まち歩きスタート！



どうすれば人がこの道を歩きたくなるのか等を分かりやすく
レクチャーしていただきました！



この植物はきれいに剪定されていますが・・・



ここで見たいもの（呉橋）を遮るものとなっていますね。
要改善！



「三種の神器」(ベンチ・植栽・イーゼル看板)を利用すれば、
より良くなります！



「三種の神器」の一つ、「イーゼル看板」！
温かみを感じますね・・・



道をきちんと整備すれば、電柱はさほど気にならないかもしれないですね！



最後まで参加者の質疑に、一つずつ丁寧に答えていただきました！

参加者の声(アンケート集計結果)

当日参加者数	133人
アンケート回答者数	68人

Q. 本セミナーで、一番印象に残っていることは何ですか？

- ・ 景観とは見ること。ただ建物を建てるだけではなく、何を視点に見てもらうかが大切。観光場所では、ベンチ一つあるだけで、客足が全く違ってくることに驚きだった。
- ・ 景観はモノ主体だと思っていたが、いかに人をもてなすかが大事が分かった。
- ・ お客様を大切にするまちづくり(おもてなしの心)という点が、宇佐は一番欠けていると思う。ホスピタリティ表現をしっかりと勉強してほしい。
- ・ 心は形にしなければ伝わらないこと。
- ・ 景観まちづくりは、まず地元が奮起しなければ始まらないと思った。

...等々、たくさんの感想や意見が寄せられました！

アンケートにご協力していただいたみなさま、ありがとうございました。今後、まちづくりを行う上での参考とさせていただきます！

あなたの知らない「景観」の世界

ようこそ、宇佐の景観づくりへ！



「景観」…そうだったのか！（景観Q&A）

「景観」とは…「良い景色や風景のこと！」

そんな風に思っている方、多いのではないですか？このページを見た後、あなたは「景観」に対する見方・考え方が変わるかもしれません！

Q. そもそも「景観」って何？

A. 見ることによって得られる視覚像のことです。簡単に言えば、自分の「見たいもの」、「見やすいもの」を見ることをいいます。

Q. じゃあ「良い景観」って何なの？

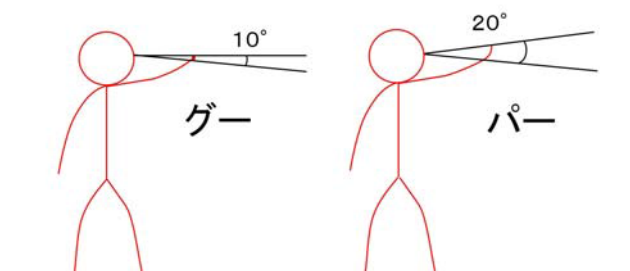
A. 良い景観とは、自分の見たいものが、他のものに邪魔されず、程良い大きさ（見やすいもの）に見えている景観のことをいいます。

Q. 「程良い大きさ」って具体的には？

A. 「見やすい大きさ」のことです。

具体的には、手を伸ばした状態で、こぶしが「ゲー」から「パー」の間の大きさ（見込角が 10° ～ 20° の間）で見えるものをいいます。

通称「ゲーからパーの原則」！ さあ、みなさんその場で手を伸ばしてゲーパーしてみてください！



Q. 「景観」はなぜ重要な？

A. 景観とは見ることでした。つまり、見ること（景観）によって我々が場所・空間等を理解する際に、手がかりを与えてくれるもの（見たいもの）となるからです。

Q. 「景観」にとって欠かせないものって何？

A. 景観（見ること）が成立するには、1つだけ欠かせないものがあります…。それは「見る場所（視点）」です。視点がないと景観は成立しません。

つまり、厳密にいうと「景観とは、視点から見ること」なのです！



この視点の場がないと… ⇒⇒⇒



この景観は成り立ちません！（宇佐のマチュピチュ）

新・宇佐町の誕生に向けて…

地元奮起！宇佐地区街なみ環境整備事業着手！



かつて宇佐神宮のお膝元として賑わいを見せた鳥居前町も、時代の変化とともにその輝きを失いつつあります。今こそ先人の努力と英知によって築かれ発展したこの町の“新たな発展”のために、そして、“歴史と緑が調和した景観の形成”と“観光交流空間の創出”を図るために、官民協働の下、地元主導で、平成24年8月に「宇佐神宮周辺景観まちづくり推進協議会」を立ち上げ、まちづくり計画をスタートさせました！

いよいよ25年度より事業着手となり、今後“道路の美装化”や“建物の修理・修景”等の神宮周辺の景観・街なみ整備計画を予定しております。また、平成27年度に開催される「臨時奉幣祭（勅使祭）」という大きな祭祀に向け、街なみを整備することで、盛大に執り行いたいという地元の熱い要望もあり、現在、協議会は昼夜を問わず協議を行い、まちづくりに向け一丸となって奮闘中です！

※「臨時奉幣祭（勅使祭）」とは…

天皇の使者（勅使）が派遣されて行われる、神社の祭祀（さいし）のことです。天皇の思召しによって勅使を神社に参向させ、天皇の祭文を神前に捧げ、奉幣を行う「勅使参向の社（ちよくしさんこうのやしろ）」と称される神社が、伊勢神宮を始め現在では全国に16社ございます。

そのうちの一社である宇佐神宮では「宇佐和氣使（わけづかい）」と称される即位奉告使や、「宇佐使」と称される恒例祭・臨時祈願使の参向が養老4年（720）以来たびたびございました。大正14年からは現在の10年に1度の奉幣祭となりました。祭典前夜の宇佐市民・崇敬者による提灯（ちようちん）行列など、多くの奉納式典が故実に従い厳粛にとり行われます。

前回の奉幣祭は平成17年10月6日に執り行われたため、今回は平成27年度の開催予定です。

また、前回の祭典前夜では火花が上がったりと、大いに盛り上がりました。今回もぜひ楽しみにしておいてください！

